

昨年6月にミハル通信の社長に就任した岩田春樹氏に、事業継承の成果と今後の展望について聞いた。

◆FCBの事業継承後の成果について

2023年4月に古河C&B(以下、FCB)がミハル通信に全事業譲渡をしてから1年以上が経過した。岩田新社長は「現在、ミハルの技術と



岩田社長

FCBのノウハウを融合させることに注力している」と語る。

特に、放送伝送技術に「市場の変化に柔軟に対

応することが求められるなか、事業継承は新たな可能性を広げる大きな一歩となった」と手応えを感じているようだ。

◆新技術へのマイグレーションの進捗状況

前社長の中村俊一氏は、事業継承の際、「ミハルの放送局向けマスターバツクアップシステムとFCBの技術の融合により、

岩田社長は、短期的な事業は、人口減少による

ミハル通信・岩田社長に聞く

事業継承の成果と今後の展望

「3年以内に売上100億円規模へ」

△開発やテストを進めており、実用化に向けた段階にある」と進捗を説明。特に、放送局向けのIP化や、5Gを活用した通信インフラの最適化に取り組んでおり、業界のニーズに定める形で開発を推進している。

◆放送・CATV業界の課題と解決策

現在の放送・CATV業界は、人口減少による

強みを持つミハルが、FCBの持つ高周波無線技

術を取り込むことで、新たなソリューションの開発を進めているという。

「現在、具体的なシステムを掲げる。具体的には、顧客の声を反映したソリューション開発を進めるとともに、社内の評価制度を見直し、社員のモチベーション向上を図る。また、長期的には

「売上100億円を達成する企業へと成長することを目指し、新製品の開発や市場拡大に注力していく考えだ。」「目標と

加えて、インフラとしての光ファイバー網の強みを生かし、通信サービスの高度化を図ることが業界全体の課題解決につながる」と考えている。

岩田氏は1985年に古河電気工業(古河電工)に入社し、主に光部品事業に従事。海外赴任の経験もあり、タイには2度駐在し、通算7年間を過ごした。その後、日本に戻り、古河電工とNNTが共同で設立した製造会社の社長を7年間務めた後、関係会社のミハル通信の社長に就任した。